

# アカエゾマツの枝打ち

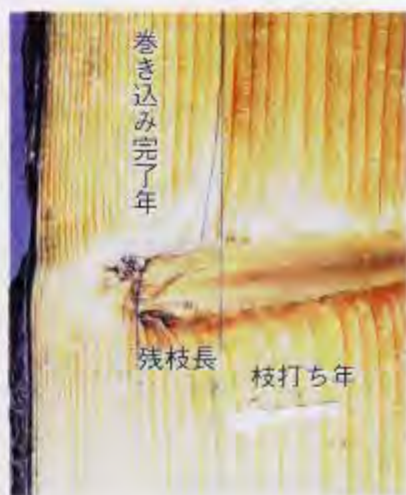
アカエゾマツは北海道を代表する針葉樹です。木目が美しく楽器や家具の材料をはじめとして、さまざまな用途に利用されています。近年、深刻な病虫獣害発生の報告がなかったことから、トドマツやカラマツにかわって造林面積が増えてきています。北海道にある人工林のほとんどは若齢な林分で、これから保育を必要とする段階に達してきています。アカエゾマツは輪生枝を形成し、落枝しにくいいため、放っておくと材の中に集中節が発生してしまいます。将来、人工林から生産される材の用途を広げ、付加価値を高めるためにも枝打ちは是非しておきたい作業です。

成長の早い一等地では、林齢が20年前後で上層高が8mに達した時点が、4mまでの枝打ちの目安となります。枝打ちを行うと葉量が少なくなるので成長量がやや減少しますが、生育の良好な優勢木についてはほとんど影響を受けないことが分かりました。したがって、林分のなかで上層をしめている500本/haくらいを将来の収穫候補木に選定して、枝打ちを行えば無駄がおきません。枝打ちを行う際には残枝長（枝打ちによって残る基部）が長いほど巻き込み年数がかかるので、極力短く抑え、幹に平行に平滑になるように切ります。輪生枝に対応した枝打ち機械も研究開発されておりますので、これらの導入を検討してみても良いでしょう。

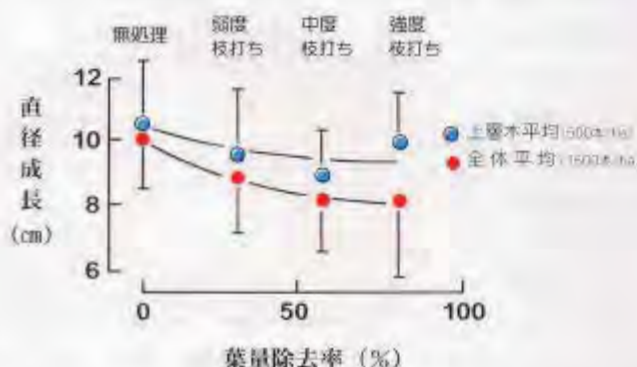
（道南支場）



枝打ち直後のアカエゾマツ



枝打ちした材の残枝長と巻き込みの様子  
残枝長（約2m）を巻き込みののに7年ほどかかっている。



枝打ち強度と14年後の直径成長の関係

上層木では強度に枝打ちを行っても成長はほとんど落ちていない(4mの枝打ちは中～強度区に相当する)。